

**『講演会並びに交流会』を開催しました**  
**(観光・サービス部会 観光政策委員会共催)**

観光・サービス部会（部会長＝中谷 忠宏（株）旭広告社 代表取締役社長）と観光政策委員会（委員長＝野並 直文（株）崎陽軒 代表取締役社長）では、2月1日（木）、132名の参加を得て、「インバウンドと地方創生」をメインテーマに、「講演会」並びに「交流会」を開催した。

中谷部会長の開会挨拶後、はじめに、「インバウンド4,000万人時代に向けた JAL のインバウンドに対する取り組み」と題し、日本航空（株）代表取締役副社長の藤田 直志氏より講演が行われた。

講演では、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、訪日観光客の増加が予想される中、観光を国の基幹産業に成長させ、持続的な観光先進国となるためには、訪日観光客のリピート率向上が必須であり、特に観光資源の情報発信が重要である。当社では、訪日外国人需要や国内の観光需要を各地へ呼び込む「JAL 新・JAPAN PROJECT」に取り組んでいるとの説明があった。

続いて、「企業活動において不可欠な Twitter ツイートからわかるコンシューマーの本音」と題し、Twitter Japan（株）代表取締役の笹本 裕氏より講演が行われた。

講演では、国内利用者が4,500万人に上る Twitter は、情報伝達が速く、一つの出来事に対して様々な意見を閲覧できる。この利便性を活かした訪日観光客を取り込む施策として、サンディエゴ市のローカルフードやワインの短尺動画を用いた紹介ツイートや、バンクーバー市の映画ロケやイベント情報の告知ツイートといった横浜市の姉妹都市の事例を交えた説明があった。

交流会では、野並委員長の発声で乾杯、終始和やかな雰囲気の中、部会員同士の交流と親睦が図られた。

また、会場内の「展示ブース」では、（一社）神奈川県タクシー協会横浜支部、京浜急行電鉄（株）、東京急行電鉄（株）、日本航空（株）、東日本旅客鉄道（株）、（公財）横浜観光コンベンション・ビューローの6社・団体より、訪日観光客を誘致する様々な取り組みを紹介する展示会を開催した。中でも飛行機の座席のVR体験や案内型ロボットを用いた展示が大変好評であり、「インバウンド獲得に向けた取り組みに工夫を凝らしており、大変参考になった」との声が寄せられた。



講演を行う、日本航空(株)藤田 直志代表取締役副社長（写真左）と  
Twitter Japan(株)笹本 裕代表取締役（写真右）。



熱心に聴講する参加者



交流会では参加者同士の親睦が図られた



展示ブースには、多くの参加者が関心を寄せた